

# 国語 (現代文)

## 早稲田大学 文化構想学部 1/5

### <総括>

出題数	現代文 (文語体の文章を含む) 2題 現・古・漢融合問題 1題	試験時間 90分
-----	------------------------------------	----------

(一) について。昨年度同様、現代の文章と古い文体の文章とが並列された形式の出題であり、古い方の文章は慶応2年(1866年)の文章であった。昨年度のAが限定された学問領域に関する内容であり、本文に登場する概念がわかりづらく理解しにくかったのに対し、今年度のAは標準的なレベルの文章であった。

(二) について。昨年度同様、平易な評論が出題された。設問も解きやすかったであろう。

(一)・(二) 全体を通して。昨年度出題された記述問題が出題されなかったこともあり、総じて昨年度より易化したと言えよう。

### <本文分析>

大問番号	(一)	(二)
出典 (作者)	A イ・ヨンスク『「国語」という思想——近代日本の言語認識』「第一章 国字問題のゆくえ」(岩波書店、1996年。2012年岩波現代文庫に収められた) B 前島密「漢字御廃止之議」(1866年 建白書)	マイケル・エメリック『てんてこまい 文学は日暮れて道遠し』(同書所収「マイケル・エメリックでございます」(五柳書院、2018))
頻出度合 ・的中等	Aは、かつては出題された筆者だが、最近はあまり出題されていない。Bも入試では見られない筆者である。	入試では稀な筆者である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約4750字(A約3450字、B約1300字)。 昨年より約1050字増。	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2250字。昨年より約450字減。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(一)	A 言語論 B 文化論	問一	マーク	標準	空欄補充問題 (組み合わせ型)。IはIIIの直前の「潜在的な可能性」やIの2行後「限定するだけだ」との対応から考える。IIは「体系」との対比や空欄直後の「つくりだす」を、IIIは空欄前後の「潜在的な可能性を～変換する」という文脈を根拠にする。
		問二	マーク	標準	空欄補充問題。前島密が漢字を廃し、「簡易なる文字」(2ページの最終行)を用いるべきだとし、「事理」(3ページ1行目)、「事物の道理」(Bの16行目)を探求すべきことを説いていること、また空欄の3行前の部分や空欄直後の「実学思想」などを根拠とする。
		問三	マーク	標準	脱落文補充問題。[ホ]のあとで、「近代ヨーロッパの俗語がラテン語からの遺産を滋養とし」た「過程は、日本語が漢語漢文にたいしてとるべき道をはっきりと指し示している」と書かれていることが根拠となる (Bの末尾にも同様の記述がある)。
		問四	記述	標準	抜き出し問題。傍線部の「ためにすべきこととして」としては、傍線部aの直後にあるように『書くこと』が重要だが、それと対応する「仮名字」(Bの4行目)を用いよ、という内容の文が解答として妥当だと考える。
		問五	マーク	やや易	語の意味の問題。「漢字」を指すのか「仮名字」を指すのかを、文脈を踏まえて判断する。
		問六	マーク	標準	理由説明の問題。Bの文章を丁寧に読んで、記述されていない内容の選択肢を選ぶ。
		問七	マーク	やや難	内容合致問題。本文全体の内容を踏まえて、選択肢を丁寧に検討する。ロは傍線部aを含む段落の内容と一致する。ニ・ホ・ヘが非常に紛らわしい。
(二)	翻訳論	問八	マーク	易	脱落文補充問題。第1段落の〈翻訳は容易〉という一般論に対して、第2段落では、「翻訳」の〈わからなさ〉が言われていることに着目し、[イ]に脱落文を入れる。
		問九	マーク	易	空欄補充問題。空欄の後の具体例から考える。
		問十	マーク	標準	傍線部の理由説明問題。傍線部がある段落の前の段落の、「考えてもしようがないことを考えないで済むように」「比喩が作り出された」という部分と、傍線部のある段落の末尾の「言語の不可解さを回避するために私たちが用いる」「比喩」という内容が、傍線部の「同じこと」だと考えて、「言語と翻訳」に即して、こうしたことを述べているロを選ぶ。
		問十一	マーク	標準	空欄補充問題。傍線部A直後に挙げられた「通じる」の空間的な意味が、言語が生み出す人間同士の関係に〈広げられた〉という意味だと考えて、ニ「敷衍」を選ぶ。
		問十二	マーク	標準	傍線部の理由説明問題。傍線部直後に、「話し手と聞き手」だけの場合には「不可解なもの」は一つだけだと書かれている。この「不可解なもの」とは傍線部Bの2行前にある「言語の不可解さ」であることから考える。
		問十三	マーク	易	傍線部の内容説明問題。傍線部直前の「比喩が現れ」が根拠となる。
		問十四	記述	標準	漢字の書き取り問題。どちらも基本的な漢字である。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

多様なジャンル、いろいろな文体の文章に慣れ、内容の理解に努めるとともに、設問の要求を見抜く力を身につけなければならない。(一)のように、文章を並列する型の問題では、文章同士に共通する話題やテーマを意識して読んでいこう。今後も文語文の出題の可能性があるので、古い文体の文章にも触れておきたい。語彙に関する知識も要求されることがあるので、概念語や慣用表現などにも習熟しなければならない。また記述問題も出題される可能性があるので、その練習も怠らないようにしたい。

# 国語 (融合問題)

## 早稲田大学 文化構想学部 4/5

### <総括>

出題数	現代文 (文語体の文章を含む) 2題 現・古・漢融合問題 1題	試験時間 90分
-----	------------------------------------	----------

昨年度同様、(三)は現古漢融合問題であった。昨年度出題された記述式の設問は本年度は出題されなかった。甲の現代文では、仏教における修行と臨終との関係について漢籍を引用しながら論じた文章から出題されたが、専門性が高く、大学受験で出題する文章としては、適切さに欠けると言わざるを得ない。乙の古文は、昨年度と同様に独立して出題された。漢文は、昨年度は独立して出題されたが、今年度は甲の現代文に引用される形で出題された。書き下し文の問題、空欄補充の問題、解釈の問題が出題された。昨年度出題された返り点の問題は出題されなかった。設問においても現代文・古文・漢文それぞれの正確な読解力が要求される。いずれも付け焼刃的な学習では正解は得られないので、本学部の受験者は、現代文・古文・漢文についての十分な対策が必要である。

### <本文分析>

大問番号	(三)	
出典 (作者)	甲 (現代文) 乙 (古文)	船山徹『仏教の聖者——史実と願望の記録』(臨川書店 2019年) 引用漢文は『高僧伝』『続高僧伝』など 『栄花物語』
頻出度合 ・的中等	甲 (現代文) 乙 (古文)	入試ではほとんど見られない筆者の文章である。 引用漢文は稀。 頻出出典であるが、この箇所の出題は稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)	甲の現代文 約3300字 (約1150字増) うち漢文 290字 (昨年より27字増) 乙の古文 約1070字 (昨年より約10字減)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	現代文 (漢文を含む) は難化。 古文は変化なし。 漢文はやや易化。

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(三)	甲 仏教論 (引用漢文は伝記) 乙 歴史物語	問十五	マーク	難	空欄補充問題。「アビダルマ」＝「小乗」ということから考える設問であるが、設問として妥当とは言えない。ちなみに、イの「大乘仏教徒の修行の階梯とは異なる」は7ページの後ろから7行目を参照する。[現代文]
		問十六	マーク	標準	書き下し文。禁止の表現「無」と使役形「令」に注意する。[漢文]
		問十七	記述	標準	空欄補充問題。「香」を手がかりにして、類似した表現の箇所を探す。[漢文]
		問十八	マーク	標準	解釈。文脈を踏まえて判断する。[漢文]
		問十九	マーク	やや難	内容説明 (道長の「聖者性」を示すものをすべて選ぶ)。[古文]
		問二十	マーク	易	文の意味 (「おこたる」の意味に注意)。[古文]
		問二十一	マーク	やや易	内容説明 (道長の臨終に際しての尼法師の発言であることに注意)。[古文]
		問二十二	マーク	標準	敬意の対象 (適切な組み合わせを選ぶ)。[古文]
		問二十三	マーク		文学史 (成立時期もしくは内容が道長の生存期間に合致しない・該当しない作品を選ぶ)。[古文]
		問二十四	マーク	標準	※大学より「設問の記述に不十分な部分があったため、適切な解答に至らないおそれがあると判断しました。当該箇所の設問につきましては、解答の有無・内容にかかわらず、受験生全員に得点を与えることといたします。」との発表がありました。 内容合致問題 (二つ選ぶ)。イは、甲の15～17行目の内容に合致する。またへは、乙の第二・第三段落の内容に合致する。[現代文・古文・漢文]

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<p>[現代文] 古典評論や文化論を中心に、様々なジャンルの文章に取り組もう。</p> <p>[古文] 基本的な単語・文法・常識・文学史等の知識を正確に習得するとともに、その知識をもとに古文の文章を厳密に読解する学力を養っておくこと。</p> <p>[漢文] 重要単語や基本句形の学習を怠らず、文脈を正確に読み取る力を培うことが大切である。白文や漢詩、文学史・思想史に対する十分な準備もしておくこと。</p>
--